

所 報

◆第8回参与会の開催

研究所は、6月21日（金）11時から当研究所において第8回参与会を開催した。参与会は、松尾金蔵（通商産業事務次官）、大堀 弘（経済企画事務次官）、内藤啓三郎（文部事務次官）、島 重信（外務事務次官）、木内信胤（世界経済調査会理事）の各参与、東畑所長、渋谷、田島両理事出席のもとに、昭和37年度事業報告および決算報告、昭和38年度事業計画および収支予算について報告・説明を行なった。

◆第6回評議員会の開催

研究所は、6月20日（木）午後1時から当研究所において第6回評議員会を開催した。評議員会は、東畑所長から昭和37および38年度の業務について総括説明を行なった後、渋谷理事から37および38年度の決算報告、収入支出予算、田島理事から37および38年度の事業報告、事業計画についてそれぞれ報告・説明を行ない、満場一致でこれを承認した。

◆おもな人事異動

おもな人事異動が次のとおり発令された。

図書資料部長心得 阪田 貞 宣
 図書資料部長を命ずる
 昭和38年7月1日付け

◆昭和39年度職員採用について

昭和39年度当研究所職員採用について、下記要領で試験を実施する。

1. 応募資格 昭和13年4月2日以降出生の者で大学卒業（来春3月卒業見込みを含む）以上の学歴を有する者。（大学院在学中・新規卒業者は年齢制限なし）
2. 試験日および場所 10月6日（日）於 東京教育

大学

3. 応募期間 9月16日から10月2日まで
 本件についての詳細、募集要項の必要な方は総務部秘書課へご連絡ください。

◇「アジア経済の長期展望計画」作業進捗状況

〔調整委員会〕

1. 委員会の開催

- (1) 小委員会—委員長連絡会議—（6月6日）

事務局より今後の予定および中間報告スケルトン第1次案の説明を行ない、各委員長より委員会の研究進捗状況の報告があり、中間報告のとりまとめ方の打ち合わせを行なった。

〔総体予測委員会〕

1. 委員会の開催

- (1) 第22回委員会（6月8日）

国別予測結果の一部が発表され、今後の研究計画の打ち合わせを行なった。

- (2) 第23回委員会（6月15日）

国別予測結果が発表され、算出された成長率、投資の伸び、などについて検討がなされた。今後の研究計画が検討され、7月13日までに各国別担当者が、1970年の予測値、部門別予測値にメモを付してまとめることになった。

2. 事務局の作業状況

- (1) 部内資料 No. 56『東南アジア諸国の1人当たり国民総生産（1960年価格）表』の作成。
- (2) 部内資料 No. 55『東南アジア諸国の国民所得統計（1960年価格）』の作成。
- (3) 商品別輸入の所得弾性値算出。
- (4) 1950年代東南アジア諸国の人口推計値の補正。

3. 今後の予定

- (1) 7月中旬までに、国別予算値の計算結果（調整後

のもの)を完成し、各委員会に配布の予定。

[農業委員会]

1. 委員会の開催

(1) 小委員会(6月14日)

事務局にて各種のデータをクロス・セクションにて検討した結果により需要の所得弾性算出の関数型を国別・品目別に選定し、穀類については結論をえた。

(2) 第21回委員会(6月21日)

「茶、ゴムの需給予測」について西村委員より報告がなされ、1970年の生産予測値を決定。その他キャッサバの生産予測値を決定。

2. 事務局作業状況

(1) 生産実績趨勢値の計算を引続き検討。(茶、ゴムを終了)

(2) 需要の所得弾性値算出のために需要関数型をクロス・セクションで検討。

3. 今後の予定

中間報告までに需給予測を完了する予定の各種穀類、甘蔗・砂糖、茶、ゴム、キャッサバの需要予測値を出し、今まで選定した生産予測値と調整して結論を出す。

[資源委員会]

1. 委員会の開催

(1) 小委員会(6月4日)

三井金属鉱業(株)、通産省鉱山局鉱業課と銅、スズの長期需給予測について打ち合わせ。

(2) 小委員会(6月13日)

油谷委員長ならびに小島慶三氏と中間報告の作成等に関し打ち合わせ。

(3) 小委員会(6月21日)

日本揮発油(株)、石油鉱業連盟と原油(生産)および石油製品(需要)の長期予測について打ち合わせ。

(4) なお、月中、林委員が八幡製鉄(株)、三井金属鉱業(株)、石油鉱業連盟、日本揮発油(株)、海外電力

調査会の各委員等を歴訪して、中間報告の作成等に関し打ち合わせを行なった。

2. 委員の委嘱

資源委員会の結成に尽力された日本精工(株)取締役・社長室長小島慶三氏を6月1日付けで委員に委嘱した。これにより、資源委員会の委員は、委員長とも計15名になる。

3. 事務局作成資料

大西委員を中心として、国連総計 *World Energy Supplies* (海外電力調査会提供) から、『アジア地域のエネルギー需給バランス表』(1950~60年)を作成。

[工業委員会]

1. 委員会の開催

(1) 第10-6小委員会(6月13日):セメント

伊勢知委員を招き、セメント需給予測の方法を決定。粗固定資本形成、建設業、製造業、鉱工業、per capita G. N. P. に対する需要弾力性を求め、相互比較と国別比較を行なうことに決定。

(2) 第10-7小委員会(6月21日):肥料

津田委員代理岡田氏を招き、肥料需要予測の方法を決定。需要予測は、きわめて困難であり、現存能力と設備計画に基づき、生産予測を行ない、まず供給面をおさえることに決定。

(3) 第10-8小委員会(6月28日):紙

河合専門委員を招き、紙需要予測の方法を決定。最終消費財としての紙と、中間財としての紙に2分し、ほぼセメントと同様の方法をとる。紙の場合は、cross-countryの方法をつめて行くことに決定。

2. 事務局の作業状況

(1) 硫酸、苛性ソーダ、ソーダ灰のバランス表作成(未定稿)。

(2) セメント、紙、板紙、繊維の所得弾性値算出のための需要関数の型を選定。

(3) 各商品の計画する勢算出のための資料整備。

3. 今後の予定

(1) セメント、肥料、紙、板紙、鉄鋼、綿糸布、合繊の各品目の弾性値計算を7月中旬までに行なう。